



## 【特別支援学校のセンター的機能】

### ～しろがね分校による地域支援～

しろがね分校では専門アドバイザーが中心となり、前橋市・玉村町・渋川市・吉岡町・榛東村の小学校・中学校・幼稚園・保育園を訪問したり、保護者に来校していただいたりして、発達の気になる子供達についての継続的な支援を行っています。

### 2月20日現在の相談依頼の件数(外部支援)

対象	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等 学校	特別支援 学校	その他	計
件数	194 件	204 件	82 件	8 件	11 件	19 件	518 件

(その他は来校相談や電話相談)

専門アドバイザーの仕事を紹介します。



外部専門家(言語聴覚士・作業療法士・理学療法士)と一緒に、幼稚園・保育園や学校に訪問する事業が今年度で2年目になりました。

今年度は言語聴覚士派遣を7回、理学療法士派遣を5回、作業療法士派遣を6回行いました。言語聴覚士の方には摂食指導や言語指導をしていただいたのですが、言語指導では1回の指導で子どもが「か」や「す」を発音できるようになるのを目の当たりにしました。担任の先生も嬉しくなり、毎日数分ずつ決められた課題を練習してくれています。

ある小学校では今まで3回の言語指導により、3年生の男の子が「か行」について、発音の指導場面や音読の時に出来るようになり、意識すれば日常生活でも「あ行」に置換せずに正しい音が出せるようになりました。

それでは今回は、作業療法士の先生と保育園の年中児クラスを訪問した時のことをご紹介します。

専門アドバイザーと作業療法士が訪問すると、同じ子どもを観察しても

指摘するポイントが異なることが分かりました。

対象児は年中児の男の子で、集団での説明で理解する力は学年相当にありましたが、不器用なことで注意力に問題があることが相談としてあがりました。制作でおりがみをしましたが、教師が隣で見本を見せても同じように折ることが難しい状況でした。また、折り方も中指や薬指と掌を使って折っていました。

専門アドバイザーの私が気になるポイントは視覚の認知力であり、見本を提示する位置やポイントとなる位置を強調して平面の位置関係を理解しやすくなる支援を考えました。また、不注意については、斜め後ろの友達が気になるので、座席を変えたり、クラス全体が教師の説明に注目するような授業展開を考えます。大切なところを子ども達に確認のために言わせたり、ポイントを絞って具体的に説明したりすることをアドバイスします。

それに対して、作業療法士の先生からは本児の手先が不器用なのは、親指と人差し指、親指と中指のペアで物をつかめないことが原因であり、指が使えるためには手首で手を支える力が必要であるとの助言をいただきました。具体的には壁面にシールを張ったり、絵を描いたりするなどの機会を設ける支援方法を紹介してもらいました。また、注意力が散漫な理由として、筋力が弱いことがあげられ、体を支える力を付けるために、壁に寄りかかってもよいので、片足立ちをしたり、体育座りのままで両足を床から少し上げて静止するなどの、幼児でもゲーム感覚で楽しめる遊びを教えてくださいました。

いかがでしょうか。普段、学級で指導をしている先生方や保育士の方々、第三者の意見を取り入れてみるのも、きっと違った視点で考えることができて、新たな発見ができると思います。

お子さんの指導で相談したいことがありましたら、お気軽にご連絡ください。障害の有無に関係なく気になる子がいる、あるいは、何となくクラス全体が落ち着かないなどの相談でも結構です。

少しでも悩んでいたら、ご連絡ください。お伺いします。



渡良瀬養護学校しろがね分校

専門アドバイザー

電話 027-268-6111